

医療の世界は これから大きく変わる。 お前が時代を作れ

わたしは今、大阪府東大阪市にて歯科医院「リョウキ歯科クリニック」を理事長として運営しています。1993年9月に30歳で開業したときはドクター私1人、スタッフ3人、アルバイト1人。32年たち今では正社員70名、非常勤30名、合計約100余名のスタッフが活躍する組織に成長しました。分院を持たずに1か所での規模の診療所を運営するのは日本だけでなく海外でも稀有のようですね。インドネシア・マレーシアからも見学に来ていただいております。私がこだわっていることが2つあります。生まれてからお亡くなりになるまで生涯にわたり健康をお守りする「地域のかかりつけ歯科医」になるという想いが1つ目、そして2つ目が「最高品質の治療」。当院の誇りが「歯科医を教える歯科医」が勤務していること。どこのクリニックにおいても上司が新入社員に仕事を教えるのは当たり前の光景です。しかし当院はそれだけではありません。「キャリアが長いから教える」でなく「学術指導者だから教える」のです。当院では歯科関連学会の認定医や専門医、理事などを務め、業界内で同業者を指導するドクターが複数名在籍しており、彼らが後進指導にあたっています。それだけでなく当院を卒業したOBで臨床や経営を同業者に指導するドクターも多数輩出しています。こうした職場環境のもとで患者さんに品質の高い治療をうけてもらえるよう、治療計画は必ず院長承認を得るなどの診療フローも徹底しています。とはいえ今の状態に

満足しているわけではなくこのタイミングを「開業元年」と位置づけ、新たな10年を見据えて改革に挑んでいます。

「お父さんも医療関係のお仕事？」と聞かれるのですがまったく違います。父は野菜や果物をスーパーやデパートに卸す会社を経営していました。子どものころ忙しいときには私も出荷を手伝っていたのですが、私は仲卸業にあまり興味を持つことができませんでした。父からも継ぐよういわれたこともありません。かわりに私が夢中になっていたのが「歴史」。日本の歴史本を読むのが好きだった私は将来的に古墳発掘員になりたいとおもっていました。しかし父は「そんなもんで飯は食えんぞ」と反対しました。理由をはっきりとは言いません。でも普段から細かな数字を追っていた父はとにかく計算がはやい。電卓よりも正確に二瞬であらゆる数値を把握しそう言ったのでしょう。中学2年になったときでした、一番仲の良かった親友がある日こんなことを言ってきたのです「俺、医者になるわ。医療つて人を助けることのできる素晴らしい仕事と思うねん。人の役に立つことが出来て感謝してもらえる、もちろん経済的にもそれなりに充実している。想いと経済的なことが両立する仕事ってなかなかないと思うねん」。それまでの私は「自分の好き」にフォーカスしていて「人の役にたつ」という概念はありませんでした。でも親友の一言で「人の役に立つとはどういうことか」を考えるようになりました。そしてもう1つ思ったのが「自分の力で仕事をした」。そこから自分なりにいろいろ調べてみると、医者の中でも早く独立できるのが歯医者ということがわかり、歯科医になると決断し、まずは父に話しました。父は大喜びで「医療の世界はこれから大

医療という仕事の持つ“人間力”の可能性

